

ネイティブコラーゲナーゼ + プロテアーゼインヒビター

Cat. No. NATE-0147

Lot. No. (See product label)

はじめに

組織からの細胞の効果的な放出には、コラーゲナーゼ酵素と中性プロテアーゼの両方の作用が必要です。コラーゲナーゼは、酵素1モルあたり4グラムのカルシウム (Ca²⁺) によって活性化されます。培養液には、分子量が68-130 kDaの少なくとも7種類のプロテアーゼが含まれていると考えられています。最適pHは6.3-8.8です。この酵素は、組織サンプル内の結合成分を消化して個々の細胞を解放するために一般的に使用されます。コラーゲナーゼ処理は、一部の細胞を死なせる可能性があります。通常、消化には0.1から5 mg/mLの濃度が使用されます。反の持続時間は、細胞死をあまり引き起こさずに足のいく細胞解離を得るために、15分から数時間まで動することがあります。活性にはZn²⁺が必要です。この製品は、コラーゲナーゼが重要なプロテアーゼ活性を必要としない場合に使用されます。

用途

プロテアーゼ阻害剤を含むコラーゲナーゼは、免疫系遺伝子多型と定量的特徴との関連を評価する研究に使用されました。また、Clostridium histolyticumコラーゲナーゼ阻害剤に関する定量的構造-活性関係の研究にも使用されました。Creative Enzymesの酵素は、豚脾島の分離に使用されました。また、マウスから脾浸潤リンパ球の分離にも使用されました。

別名

EC 3.4.24.3; クロストリジウム・ヒストリティカムコラーゲナーゼ; クロストリジオペプチダーゼ A; コラーゲナーゼ A; コラーゲナーゼ I; アクロモバクター・イオファガスコラーゲナーゼ; コラーゲナーゼ; アスペルギロペプチダーゼ C; スクレオリシン; アゾコラーゲナーゼ; メタロコラーゲナーゼ; ソイコラーゲチン; クロストリジウム・ヒストリティカムプロテイナーゼ A; クロストリジオペプチダーゼ II; MMP-8; クロストリジオペプチダーゼ I; コラーゲンペプチダーゼ; コラーゲンプロテイナーゼ; コラーゲナーゼ MMP-1; メタロプロテイナーゼ-1; コラザ; マトリックスメタロプロテイナーゼ-1; MMP-1; マトリックスメタロプロテイナーゼ-8; マトリックスメタロプロテイナーゼ-18; 間質コラーゲナーゼ

製品情報

EC番号 EC 3.4.24.3

活性 2-5 FALGPA ユニット/mg 固体、> 1,000 CD ユニット/mg 固体、ラット脾臓細胞の分離に適しています。

保管・発送情報

保存方法 -20°C